

# Koku Jun

こくじゅん通信

特集 | close up |

## 血管外科

 国立循環器病研究センター  
National Cerebral and Cardiovascular Center



### 国立循環器病研究センター理念

私たちは、国民の健康と幸福のため、高度専門医療研究センターとして循環器疾患の究明と制圧に挑みます。

### 基本方針

- 1 循環器病のモデル医療や世界の先端に立つ高度先駆的医療を提供します。
- 2 透明性と高い倫理性に基づいた安全で質の高い医療を実現します。
- 3 研究所と病院が一体となって循環器病の最先端の研究を推進します。
- 4 循環器病医療にかかわるさまざまな専門家とリーダーを育成します。
- 5 全職員が誇りとやりがいを持って働ける環境づくりを実践します。

2013/03 | 10

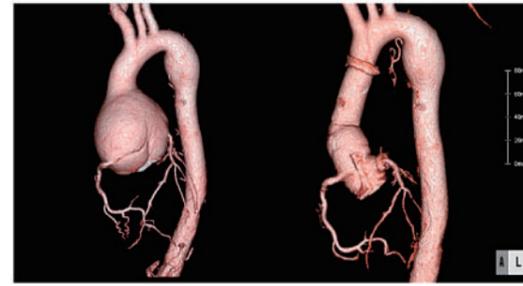
# 血管外科

国内屈指の手術件数のもと、最先端技術を追求

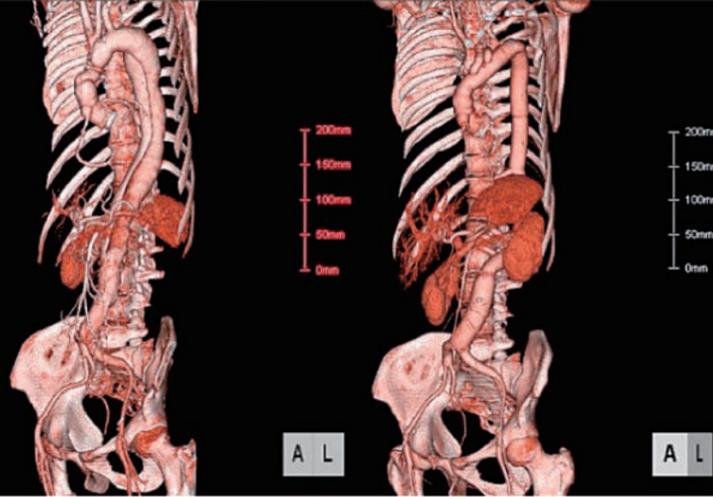
**【患者さんにとって最善の方法を選択】**

国循では設立以来、心臓血管外科の中に大動脈外科を専門とする血管外科が独立しています。他施設でも大動脈手術が行われるようになってきましたが、弓部大動脈瘤置換術、胸腹部大動脈瘤置換術、大動脈基部置換術等は圧倒的な経験を有します。

大動脈瘤の手術は術前に症状がなく、言い換えると術後にも症状が消失するわけではないので、実感を得にくく理解しにくい手術です。一般的な心臓の手術と異なり、術後に機能が改善するわけではなく、身体にとって負担が大きい手術であることが知られていました。そのため、従来、大動脈瘤の手術は成績が悪いとされていましたが、国循は国際的にもその良好な成績がよく知られています。現在、大動脈瘤に対する治療法には従来からの人工血管置換術と最近積極的に実施しているステントグラフト留置術の二つがあります。国循では患者さんの状態に応じた最善の方法を選択すべく、どちらかに



大動脈基部拡大に対する自己弁温存大動脈基部置換術(左:術前、右:術後)



胸腹部大動脈瘤人工血管置換術(左:術前、右:術後)

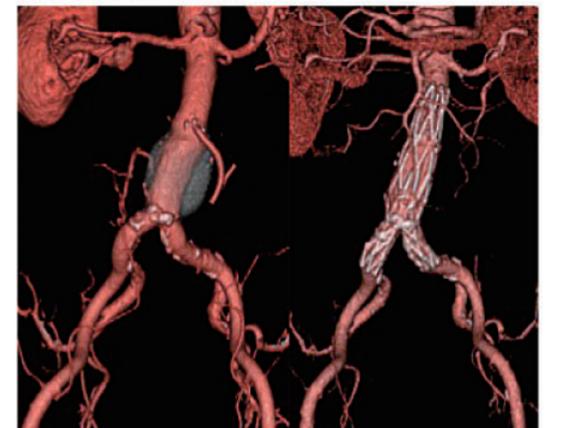
偏ることなく双方とも力を入れていきます。特にステントグラフトが近年注目され、マスコミ等で報道されることが多いことから、患者さんのほうから使用を希望されることが多くなっています。ステントグラフトは低侵襲で患者さんの負担が極めて少ない優れた治療法ですが、全ての動脈疾患に有効に使えるとは限りません。また未だ歴史が浅い治療であり、長期遠隔期の問題もよく分かっていません。通常の人工血管置換術の成績も決して悪いものではなく、国循では、十分に検討した上で、その患者さんにとって一番ふさわしい治療を考慮してお勧めしています。

**【365日24時間体制で受け入れ】**

急性大動脈解離の治療成績も向上してきました。急性大動脈解離は大動脈瘤とは異なり、突然発症するのが特徴です。急性大動脈解離は、高血圧が放置されると起こりやすいと考えられています。急性大動脈解離は、発症するとすぐに生命の危機にさらされる重篤な疾患であ



弓部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術(左:術前、右:術後)



腹部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術(左:術前、右:術後)



り、大部分の症例で一刻も早く手術を行う必要があります。緊急手術の成績の向上のために、医療連携室、緊急外来、麻酔科、手術室、集中治療室、臨床工学技士の皆さん方と協力し、5名の大動脈の専門医が365日24時間体制で緊急症例の受け入れを行っています。一刻も早く手術を開始するために、救急車で搬送されてからできるだけ速やかに手術室に移動

するようにしています。その際に説明が不十分なならないように、執刀医とは別の医師が手術の説明を行うこともあります。これからも、最先端の技術を追求して、国内外の大動脈疾患で苦しむ患者さんを救命するように努力を続けてまいります。

## 部門のご紹介

# 手術室

Operating Room



最先端の高度医療を実践しています。

手術室看護師が心がけていること

- 手術における安全の確保と、患者さんの立場に立った看護を提供しています。



緊急性の高い手術は昼夜を問わず対応



ロボット手術など最先端の治療を実施



手術とカテーテル治療を同時に行うハイブリッド手術室

国循の手術室では、24時間体制で高度な技術を要す緊急性の高い手術に対応しています。手術室は9室あり、心臓血管外科（小児先天性心疾患・後天性心疾患・血管疾患）、心臓内科、脳神経外科、周産期科の手術を毎日実施しています。心臓移植・ロボット手術などの最先端の高度医療を実践しています。また、手術とカテーテル治療を同時に行うことができるハイブリッド手術室での、より高度な治療も行っています。手術室では看護師だけでなく、麻酔科医師・臨床工学技士・外科医師・放射線科医師・診療放射線技師などは看護師だけでなく、麻酔科医師・臨床工学技士・外科医師・放射線科医師・診療放射線技師など、多職種との連携により患者さんの治療に全力を尽くしています。

平成24年は、2568件の手術実績があり、そのうち緊急手術は792件（31%）と昼夜を問わず、生命の危機に瀕した状態にも多く対応しています。そのような中でも、看護師は手術を受けられる患者さん及びご家族の不安を和らげ、安心していただけるように安全な手術室看護の実践を心がけています。

## 健康講座⑩

# 閉塞性動脈硬化症

～救肢に一生を得るために～

心臓血管内科 血管科医長 河原田 修身



食生活の欧米化、糖尿病や腎臓病の増加、高齢化社会の到来などによって足の動脈硬化の患者さんが増えてきています。この病気を「閉塞性動脈硬化症」といいます。足の動脈が狭くなったり詰まったりすることで血流不足になり、足の冷感から歩行時のお尻や太もも、ふくらはぎの痛み、さらには足の潰瘍壊疽にいたる場合があります。その一方で、しばしば症状を自覚しないまま進行していく場合もあります。また閉塞性動脈硬化症の方は心臓や脳の動脈も同じように動脈硬化が進んでいることが多く、近い将来に心筋梗塞や脳梗塞を発症する可能性も高いとされています。

足の症状が気になる方、50歳以上で糖尿病がある方、また喫煙歴、高血圧、コレステロールが高いなど2つ以上の危険因子がある方は足の血圧測定をお勧めします。足首の血圧は外来検査で簡便に測定することができますので医師にご相談ください。足首の血圧が低ければ閉塞性動脈硬化症の可能性が高いと言えます。



足首の血圧測定の実際

### Q. どんなことに気をつけるといいでしょうか？

**A.** タバコを吸っている方は禁煙がとても重要です。糖尿病の方は、感覚が鈍くなっている可能性があるため冬場で足が冷たくても湯たんぽやカイロなどの使用は避けてください。低温やけどがきっかけで足壊疽にいたる場合があります。また足の水虫や胼胝などから細菌感染や潰瘍壊疽を発症する場合もあるのでフットケアに心がけてください。

### Q. どんな治療法があるのでしょうか？

**A.** 症状がひどい場合には、積極的に血流を良くするためにカテーテル治療やバイパス手術を考慮します。軽症の場合には血流を改善する薬を始めます。

閉塞性動脈硬化症で困らないために、文字通りしっかり“足元を見る”ことが大切です。適切な生活と治療により足を救うことができます。“救肢に一生を得”て、足ばかりではなく全身の血管病も予防しながら、いつまでも元気に自分の足で歩く、健康な暮らしを送っていただきたいと思います。

# 「かかりつけ医」のご案内

自宅に近く、気軽に相談できる「かかりつけ医」と当センターとの二人主治医制で患者さんをサポートします。

## 「かかりつけ医」とは？

日頃から患者さんご自身やご家族の体質や病歴、健康状態を把握し、診療行為のほか健康管理上のアドバイスなどしてくれる身近な医師（ご自宅や職場近くの診療所など）のことです。より専門的な治療や検査が必要な時は、適切な病院を紹介してもらえます。



## 「かかりつけ医」と一緒に患者さんを見守ります。

当センターは、循環器の専門病院です。循環器疾患の専門的な検査や治療を必要とする患者さんに、適切に治療を受けていただける様、地域の医療機関とそれぞれの役割を分担し、連携をとりながら患者さんの健康をサポートしています。

病状の変化や、定期的な検診など、当院で治療が必要な場合は、従来どおり当院で対応させていただきますので、ご安心ください。

## 患者さんにとってのメリットは？

### ● 身近で便利

ご自宅から近く、待ち時間も比較的短くてすみます。夜診を行なっている医院が多いため、お仕事をお休みして病院に行く必要もありません。

### ● 気軽に相談できる

一人の医師と長く付き合うことで、安心して気軽に相談できます。急に具合が悪くなっても適切に治療してもらうことができ、「何科を受診したら良いのかわからない」といった時でも安心です。

### ● 病気の早期発見につながる

普段の健康状態や過去の病歴などを把握しているため、患者さんの体調変化をいち早くとらえることができ、病気の早期発見につながります。

「かかりつけ医」についてのご相談は下記まで

独立行政法人  
国立循環器病研究センター  
専門医療連携室窓口

主治医と相談の上、お越し下さい



## 国立循環器病研究センターの減塩レシピが本になりました

# 「国循の美味しい！ かるしおレシピ」

国立循環器病研究センター（国循）は、「減塩なのにおいしい」と好評をいただいているオリジナル減塩メニューを紹介したレシピ本「国循の美味しい！かるしおレシピ～0.1mlまで量れる！かるしお（軽塩）スプーン3本セットつき」（セブン&アイ出版）を、12月11日（火）より全国の書店にて発売しました。

世界的にみても日本人の食塩摂取量は約11g/日と高く、成人の3人に1人、高齢者の3人に2人は高血圧と診断されています。高血圧は脳卒中や心臓病につながりやすく、高血圧の予防と治療は国民的な課題です。国循では平成17年から、1日の塩分摂取量が合計6グラム未満（1食2g未満）となる減塩食を入院患者さんに提供しています。この減塩食は京都の割烹などで修行した調理師長を中心に、京料理の手法を取り入れて独自メニューを開発したものです。退院された患者さんからは「あの食事を家庭でも食べたい」と要望をいただいていた。今回のレシピ本は、減塩食の必要な患者さんだけでなく、幅広く塩分を控えた食生活に関心がある一般の方までを対象に制作され、健康寿命をのばす適切な食生活のガイドとして活用いただきたいと考えています。

国循は、「循環器」を対象とする国内唯一の国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）として、循環器疾患の究明と制圧に挑んでいます。病態解明と先端医療の研究・提供だけではなく、「循環器病の予防」のための研究・情報提供にも取り組んでいます。今回の出版は、国循の「減塩プロジェクト」の一環であり、今後も日本人の食塩摂取量を減らすために多角的に活動していきます。



## ● 「かるしお」について

国循が循環器病の入院患者さんに出す通常の食事は、1日の塩分摂取量が合計6グラム未満（1食2g未満）となる減塩食ですが、国循の管理栄養士や調理師たちの「独自の調理」への工夫により「おいしい」という評価をいただいています。その工夫の一つが塩を軽く使ってうまみを引き出す「かるしお」という新しい減塩の考え方です。少ない塩分だからこそ、美味しいメニューとなっています。本書では、「しっかり味」の秘密である、八方だしや、素材のきざみ方など、「国循の減塩調理」の基本とあわせ、循環器病の予防に向けた減塩の重要性を紹介しています。そのうえで、栄養面や彩りの工夫とともに、春夏秋冬の季節感あふれる家庭での減塩献立レシピを73点紹介しています。

## ● 書名

「国循の美味しい！かるしおレシピ～0.1mlまで量れる！かるしお（軽塩）スプーン3本セットつき」

# News Release

## 子どもからの臓器提供を想定した 訓練を実施

2013年1月15日、医師、看護師、コーディネーターら100名超が参加し、脳死と判定された子どもからの臓器提供を想定した公開訓練を実施しました。

5歳の娘が脳動静脈奇形による脳内出血のため脳死と判定される状態になったと想定して行われたこの訓練では、まず、主治医役が「脳死とされる状態」と診断するところからシミュレーションを開始。続いて、ご両親役に娘の状態を説明、その上で臓器提供という選択があることを説明しました。



娘の状態について両親に説明



実際の医療器具を用いて脳死判定

その一方、虐待の有無を判断する委員会が開かれ、医師役、看護師役が、外傷の有無、児童相談所への相談歴がないかなどを確認。その後、実際に日本臓器移植ネットワークに所属するコーディネーターが、ご両親役に臓器摘出までの過程を説明し、承認書にサインをいただきました。続く、法定脳死判定では娘役の人形を相手に実際の医療器具を使用して判定しました。

小児からの臓器提供を想定した訓練は、2010年9月に続いて2度目。院内外の100人超の聴講者も、臓器摘出までの一連の手順とそれぞれの役割を確認することができました。

## 交通アクセス

- JR東海道線・新幹線「新大阪」駅下車→地下鉄御堂筋線・北大阪急行線「千里中央」駅下車→阪急バス5番乗場（一部6番乗場）「循環器病センター前」下車
- 阪急電鉄千里線「北千里」駅下車→阪急バス5番乗場「循環器病センター前」下車
- 大阪国際空港（伊丹空港）→大阪モノレール「千里中央」駅下車→阪急バス5番乗場（一部6番乗場）「循環器病センター前」下車
- 名神高速道路「吹田IC」より約10分
- 名神高速道路「茨木IC」より国道171号線「今宮交差点」を経て約20分

無料シャトルバス（土日以外は毎日運行）

千里中央・北千里・阪急茨木市・JR茨木・石橋・箕面、各駅より発着



### シンボルマーク



「国立循環器病研究センター」は、新しい医療モデルを産み出すクリエイティブな場。それは無限の循環・相互作用となって、つながっていきます。「青」と「赤」のカラーは、静脈と動脈を示すと同時に、医療と研究、知性と情熱、患者と医師といった、相対する要素の相互触発と協力をあらわしています。

### 【お問い合わせ】

独立行政法人 国立循環器病研究センター 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5丁目7番1号  
国立循環器病研究センター総務課広報係 TEL: 06-6833-5012 (代) <http://www.ncvc.go.jp>

